

## 過去の掲載図書

<b>武山 良三（教養教育院長～R7.3.31）</b>
読書は知識を得るためだけでなく、想像力を高める上でも効果的な行為です。紙の質感を楽しみ、自分のペースでページをめくり、文字を読む度に思いを巡らす。そこに大きな学びがあることが魅力です。
1. これからのデザイン思考 小山田 那由他，エムディエヌコーポレーション，2021年 色や形といったスタイリングではなく、なぜその色や形を使うのかといった考え方に着目した「デザイン思考」は、社会課題の解決や新たな価値創造に有効な考え方として注目されています。多くの本はスタンフォード大学で提唱されたデザインプロセスを軸としたデザイン思考を紹介しているのに対して、本書は考え方や図を用いたプロセスを紹介している点がお勧めです。
2. APPLE 三木 健著，CCCメディアハウス，2017年 「りんご」という誰にでもわかるものをテーマにしつつ、それを大きさや色、平面や立体、言葉や概念などさまざまな観点で捉え直すことを豊富な図版を用いて紹介しています。観察・分析・考察・立案・試作・表現といったデザイン思考の構成要素を、楽しく学ぶことができる本になっています。
3. 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？ 山口 周著，光文社新書，2017年 論理的・理性的な情報処理のスキルが限界を迎えていること、世界を代表する企業経営者が直感や感性的なアプローチを重視した取り組みを始めていることを、「美意識」をキーワードにわかりやすく解説しています。最先端の技術を活かす上で、文化がいかに重要かが理解できます。
<b>谷井 一郎（理系教育部門 ～R7.3.31）</b>
地球規模課題への対応など人類・地球の未来へ向けて私たちが何をなすべきか、その答えは専門的知識だけでは得られません。様々なものの見方ができるように、特定の分野に偏らない多読をすすめます。私の学生時代を振り返ると山本周五郎の小説にのめりこんだ時期がありました。少し難しいと思う本は枕元に積んでおき、興味を持ったものから読んでいました。
1. What is life? ポール・ナース著，ダイヤモンド社，2021年 生命の本質は生物学者のみならず哲学的にも重要なテーマです。ノーベル生理学・医学賞受賞者である著者が子のテーマに答えています。およそ80年前に量子物理学者シュレーディンガーが著した同名の本のオマージュです。物理学者が生命の本質を見極めようとしたことは驚きです。
2. 生物と無生物のあいだ 福岡 伸一著，講談社現代新書，2007年 上記の本と同じテーマを扱っています。福岡氏は、「生命を動的平衡にある流れ」と見ます。見方が違えば生命の全く違う側面が見え、発想の柔軟さの重要性に気づかされます。福岡氏の本には文化系と理科系の知の統合があり読みやすく、そのほかの著書もおすすめです。
3. 沈黙の春 レイチェル・カーソン著，新潮社，1974年 1950～1970年代には産業の急速な発展による公害が大問題になりました。1962年に海洋生物

学者である著者はこの本で環境問題を告発しました。環境保護思想の源流がここにあります。環境汚染物質による先天異常や健康被害について、科学的知見に基づいた説明は説得力があります。

4. 7つの習慣 人格主義の回復 スティーブ・コヴィ著, キングベアー出版, 2013年  
自己啓発本のベストセラーです。自分のライフスタイルや思考パターンを見直すための重要原則を、体験談を交えてわかりやすく説明しています。かつて朝から深夜まで仕事をしている時期にこの本(旧版)と出会い、様々な気づきがありました。社会に出る前に読んでおくことをおすすめします。

5. Life Shift (ライフ・シフト) L・グラットン, A・スコット著, 池村 千秋訳, 東洋経済新報社, 2016年  
皆さんの親の世代のロールモデルは今の若い世代にとって必ずしも有効ではありません。本書は、若い世代がどのように人生を築くべきかを考える手引きとなります。仕事やお金のことでなく、お金の換算できない見えない資産の重要性など、学ぶことがたくさんあります。本書を手にとって、自身のキャリアについて考えてはどうでしょうか。

#### 栗本 猛 (保健体育・情報処理部門 ~R7.3.31)

時間のあるうちに乱読でいいからたくさんの本を読んで、自分に合うものを見つけましょう。

1. データサイエンス「超」入門:嘘をウソと見抜けなければ、データを扱うのは難しい: truth or fake: data science techniques 松本 健太郎著, 毎日新聞出版, 2018年

フェイクに騙されず、データの信頼性を確かめたり、その意味することを正しく理解するための方法を身につけるための第一歩として目を通してみてください。難しい数式は出てきません。

2. 数学文章作法 基礎編 結城 浩著, ちくま学芸文庫, 2013年

書名に数学とありますが、数学を説明するのではなく数学の証明のような論理的文章を書くためのノウハウがコンパクトにまとめられています。理系、文系に関わらず大学でレポート等を書くのに参考となります。続巻として推敲編も出ています。

3. 物理学読本 第2版 朝永 振一郎 著, みすず書房, 1969年

物理学という学問を題材にして、科学的な考え方を伝えるための書籍。物理学を専門とする人にも、そうでない人にも非常に参考となります。

#### 名執 基樹 (人社総合教育部門 ~R8.3.31)

1. はてしない物語 (上/下) ミハエル・エンデ著, 岩波書店, 2000年

読み手が登場人物となるメタ小説的な仕掛けのファンタジー。苛められっ子の主人公がウロボロスの絵が表紙の本を盗む所から話は始まります。空想と現実。尻尾を噛み合うウロボロスの絵のように双方が噛み合う世界観、登場人物それぞれが物語を持つ世界観(「それはまた別の話」)は魅力。反戦・環境運動で社会を動かした八十年代ドイツの若者のバイブルです。

2. 銀河ヒッチハイク・ガイド ダグラス・アダムス著, 河出書房新社, 2005年

現代社会はポンコツかも。反核・環境運動が盛り上がるヨーロッパで若者たちにバカウケだっ

た作品。作者はイギリスの喜劇集団モンティ・パイソンで脚本家を書いていた人物、地球が宇宙バイパス開発のためぶっ飛ばされて話は始まり、時空を旅し原始の地球の自然の中で幕を閉じます（五巻目）。根強いカルト的ファンがいる傑作です。

片桐 達雄（理系教育部門 ～R8.3.31）

活字離れが進む昨今、たまには紙の本を読んでみるのも良いよ。特に大学時代に出会った良書はあなたの一生について回ると思います。昔はふらっと本屋に立ち寄ることをおすすめしていたのだけれど、本屋さんめっきり少なくなっていました。それでも、大学の生協あたりの本屋さんで本の背表紙をふむふむと見て回るのも良いし、講義のないとき図書館に出かけてみるのも良いと思います。

1. 坂の上の雲 司馬遼太郎著，文春文庫，1999年

「愚者は経験に学び智者は歴史に学ぶ」といわれます。私的にはちょっと異論があるところです。愚者は何も学ばない…。それはさておき、大学1年生のみなさんは歴史小説を読んで歴史に学びましょう。おすすめします。なかでも司馬遼太郎氏の作品は、厳密には史実と異なる部分も多々あってそのまんまを歴史と勘違いしてもらうのは困るのだけれど、ある時代に懸命に生きた主人公達の司馬節で語る生き様はこれからの人生観に大きな影響を与えることでしょう。あなたが生まれた時代と社会の中で、自分の命をどう使うべきか、ヒントになるといいですね。

2. 峠 司馬遼太郎著，新潮文庫，2003年

歴史小説に分類される司馬遼太郎作品の中でも、この「峠」と次の「梟の城」はかなり異彩を放つ作品ただと思います。「峠」幕末、河井継之助の一生を描いていますが、司馬遼太郎が描くところの河井は、それこそ自分の命を自分の「良知」に如何に殉ずるかという生き方をしたことになっています。この作品における「河井継之助」の生き様を楽しむためには、バックグラウンドとして「陽明学」と「唯心論的認識論」という言葉を調べておくとも良いかもしれません。ただ陽明学派の純粹苛烈さに憧憬するだけでなく、現実における危険さと哀しさまでも深く読み取れると、あなたの人生に深く刻まれる一冊になりますよ。

3. 梟の城 司馬遼太郎著，新潮文庫，1965年

先に紹介した「坂の上の雲」「峠」よりも、司馬遼太郎の初期の作品であり、直木賞作品です。先の2作と完全に異なるフィクションです。（因みに先の2作もフィクションである事はお忘れ無く）。映画にもなっていますが、まあ本を読みましょう。主人公の葛籠重蔵は伊賀忍者です。今回片桐が紹介する作品は、この作品も含めて生まれ落ちたからには、その時代・その環境でいかに「自分の命を使うか？」という、皆さんのテーマに作品中の主人公の生き様と照らし合わせることで、あるいは照らし合わさないことを楽しめる…だろう！と、いうことで、あなたの人生の糧となるおすすめ本なのです。

4. 新装版 孫子 海音寺潮五郎著，講談社文庫，2008年

司馬遼太郎作品に次いでおすすめするのは、「孫子」です。孫子は「軍略家」として有名です。中国春秋時代の兵法書『孫子』を著したとされる思想家孫武の半生を描いています。恐ろしく昔の戦略思想が現代においてもいささかも色あせずに通用することにあなたは驚くでしょう。そし

て、あなたが生きていくこれからについて、「うまく生きていく」ための考え方とヒントがたくさん得られると思います。ビル・ゲイツの愛読書が「孫子の兵法」(海音寺潮五郎作品では無いと思います)である事は有名ですね。

5. 生命潮流: 来たるべきもの予感 Lyall Watson 著, 工作舎, 1981 年

著者間のライアル・ワトソンは放浪する生物学者として有名です。地球上になぜ生命が発生したのか? 心とは何か? 科学進歩は人類に何をもたらすのか? 進化とは何か? いろいろな不思議なエピソードと科学的思考のはざままで、大変興味深い科学的仮説にたどりつく過程を楽しめる著作です。有名どころでは 101 匹目のサルが芋を洗ったとたん、なぜ全島のサルも芋洗いして食べるようになった? という事実を素に進化は時間軸に垂直にのみ起こるにあらず、水平にも起こりうる。突然変異のみに帰結するのではなく。「意識も進化する」という仮説はあまりにも有名です。あなたはどうか考えるかな?

6. コウモリはウイルスを抱いて空を翔ぶ (副題)生き物たちのネオ免疫学 新田剛著, 2023 年

免疫学会で同じ高校生物教科書の免疫関連部分審査を担当している仲間の著書です。

新型コロナウイルスの感染拡大パンデミックを軽々した今の人類にとって免疫学は必須の知識です。この免疫学を興味深く核心を突いて学ぶ事ができる本です。

内容は

- 未知のウイルスの発生源はなぜいつもコウモリなのか?
- 哺乳類の「妊娠」を可能にしたのは太古のウイルスのおかげ?
- 伝染するがんがあるってホント?
- 免疫がつくってどういう状態?、医学ではなく生物学の視点から解説した、全く新しい「免疫学講座」。